

## 米国 北西部のサクランボは遅いが待つに値する

The Packer 2023年6月8日

スターランチ農場(ワシントン州ウェナチー市)の事業開発責任者であるダン・デイビス氏は、今シーズンのワシントン州産サクランボの出荷は遅れているが、待つ価値は十分にあると言う。

同氏によると、収穫時期は昨年より2週間も遅れている。

デイビス氏は、1年前のサクランボの出荷量は約1,500万箱であったが、今年は5年平均を上回り、2千万箱台の前半から半ばになる可能性があると言った。

スターランチ農場は、6月18日～20日頃に小規模に収穫を開始し、6月25日までに量が増えると予想している。出荷は7月を通して最盛期で、8月中もずっと出荷が続く見込みである。

北西部のサクランボ出荷業者は通常、7月4日(独立記念日の祝日)に向けて大量に出荷するが、今年の祝日向け販売促進に使える出荷量は逼迫すると見られる。

デイビス氏は、カリフォルニア州産のサクランボは6月の第2週または第3週まで収穫できると述べた。

同氏は、「我々のサクランボがカリフォルニア州産と重なるだろうという考え方については、あまり重複することはないだろうと見ている。実際には途切れないようにするのが難しいと思う」と言う。

同氏によると、スターランチ農場は、ポーチバッグ、グラムシェル、トップシールパックの組み合わせでサクランボを提供している。同氏は、グラムシェルは電子商取引の小売プラットフォームに適した選択肢になる可能性があり、一方ポーチバッグは小売店で大きくて人目を引く商品展示でサクランボを販売するために依然として人気があると言う。

デイビス氏によると、輸出市場は北西部のサクランボに対し強い需要を示すと予想されており、通常、台湾、韓国、日本等が同社の主要輸出市場である。

スターランチ農場は有機栽培のサクランボも提供しており、近年出荷量が増えている。

米国北西部の有機生産者にとって今年の懸念の1つは、開花の遅れである。有機栽培では慣行栽培と比較してカビに対処する手段がそれほど多くないため、夏の後半にはそれが有機果実の問題になる可能性がある。

### 低温が鍵

慣行栽培と有機栽培の両方で、サクランボの品質の鍵はコールドチェーンであり、スターランチ農場では園地から梱包施設までカバーしているとデイビス氏は言う。サクランボは果樹園でハイドロクーリング(収穫後すぐに冷水で冷却すること)され、冷蔵トラックで梱包施設に運ばれて、そこではすぐに冷蔵室に入れられる。

同氏は「低温は、サクランボの棚持ちを維持する上で、最大の焦点である」と言う。

スターランチ農場は、高度な光学的選別機能(サイズ及び等級)を備えたユニテック社のサクランボ梱包機を備えている。

執筆者: トム・カースト